

はじめに

令和2年2月28日、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国に緊急事態宣言が発出されました。それ以降、教育現場でも卒業式、入学式の簡素化、分散登校、行事の自粛、延期、縮小等、日常の学校生活が送れなくなりました。しかし、児童・生徒の学ぶ機会を止めるわけには行けません。そこで岡崎市教育委員会の強力な支援により、夏以降、全教職員、児童・生徒に一人1台のタブレットが配付されました。そして、教育現場でのICTの活用は着実に進み、従来の一斉授業から生徒主体の授業へと変化しています。まさに新学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」を具現化し始めていると感じています。

本年度、算数・数学部は、研究主題を「数学的な知識・技能、見方・考え方を身に付け、主体的に問題を解決し活用する授業の工夫」として活動を始めました。しかし、私たちの学びの場である読書会、情報交換会、授業研究発表会等が中止、自粛、紙上発表になり、顔を合わせて生の言葉での力量向上の機会が激減してしまいました。それでも、部長・指導員・世話係が中心となり、各校の主任及び部員の先生方の協力でオンラインでの主任会や部報やホームページでアイデア集を活用した授業実践の報告をしたり、研究会の報告をしたりするなど情報発信を地道に続け学ぶ機会としてきました。また、基礎学力調査を実施したり、アイデア集第33集の発刊に向けて多くの先生方から原稿が応募されたりなど、先生方の積極的な取組が本年度もあり、岡崎の先生方の向上心の高さを再確認しました。特に統計グラフコンクールでは、全国コンクールは中止になってしまったものの、愛知県のコンクールには小・中学校あわせて102点の応募があり、金賞9点、銀賞17点、銅賞12点、奨励賞3点、合計41点が入賞しました。また、統計グラフコンクール指導者表彰として、団体では三島小学校、個人では連尺小学校の三浦優子先生が表彰されました。岡崎の算数・数学部の質の高い教育が、諸先輩方から脈々と受け継がれていることを改めて実感しました。

令和3年度は中学校で新学習指導要領が完全実施になります。また、東海地方数学教育会第68回研究（愛知）大会が岡崎を舞台に行われます。コロナ禍の中で培った「主体的・対話的で深い学び」の実践や、ICTを活用した成果を広く発表できることを期待したいと思います。最後になりましたが、私たちの活動に対して常に温かいご指導をいただきました岡崎市教育委員会、いつもご支援くださる読書会講師の柴田録治様、栗田万砂夫様はじめ、多くの先生方に感謝申し上げます。

令和3年3月

岡崎市現職研修委員会算数・数学部長 溝口了実